

(3) 社会教育系施設

ア 図書館

①サービス状況

図書館は、図書や雑誌、新聞等の資料の収集・保存を行い、多様な市民の暮らしに役立つ情報を提供する施設です。

本市には、長門市立図書館とゆや分館（ラポールゆや内）の2つの図書館があり、図書館システムの管理・運営を行うほか、読書相談や調査研究への支援、学習の場を提供しています。また、学校等の関連施設との連携や市民活動への支援・協働事業を実施するとともに、「ぐるブック号」による移動図書館サービス等の多様な取り組みを展開しています。

なお、蔵書数は、平成25年度末時点で全館合計約15万9,000冊となっており、資料の選択や収集、予約、照会サービス等についてゆや分館と共同で取り組むとともに、県立山口図書館をはじめ、他の公立図書館等とも連携し、全館の所蔵情報や各種サービスを最寄りの館から活用することができます。

②建物状況

図書館は築後17年で比較的新しく、目立った老朽化は進んでおらず、日常的な修繕程度で済んでいます。数年後には20年を経過することから、今後は大規模修繕が生じる可能性があります。また、書架スペースや閲覧場所の不足など、施設の狭あい化への対策も課題となっています。

建物の耐震化については、新耐震基準で建設されているため、耐震化は不要となっています。

◆築年度別の整備状況

No	建物名	併設施設	建設年度	構造	地上	地下	施設延床面積(m ²)	耐震化実施状況	
								耐震診断	耐震改修
1	長門市立図書館	なし	H9	RC	2		1,907	未実施	未実施
参考	ゆや分館(ラポールゆや内)	ラポールゆや	H9	RC	1		-	未実施	未実施

③管理運営状況

図書館は、月曜日・祝日（一部開館）・蔵書点検期間・毎月第1水曜日図書整理日・年末年始以外はすべて開館しており、開館時間は基本を9時30分から18時までとしています。ただし、7月と8月は19時まで延長しています。

また、管理運営は市の直営で行っており、スタッフは延べ11名で運営しています。

◆開館状況一覧

No	施設名	併設施設	開館状況			備考
			開館日		休館日	
			火～金	土日祝	定期休館日	
1	長門市立図書館	なし	9:30～18:00	9:30～17:00	月曜日・年末年始	7月・8月の平日のみ 9:30～19:00 毎月第1水曜日は図書 整理日で休館
2	ゆや分館	ラポールゆや	9:00～18:00	9:00～17:00	月曜日・年末年始	月曜日が祝日の場合は 翌日

④利用状況

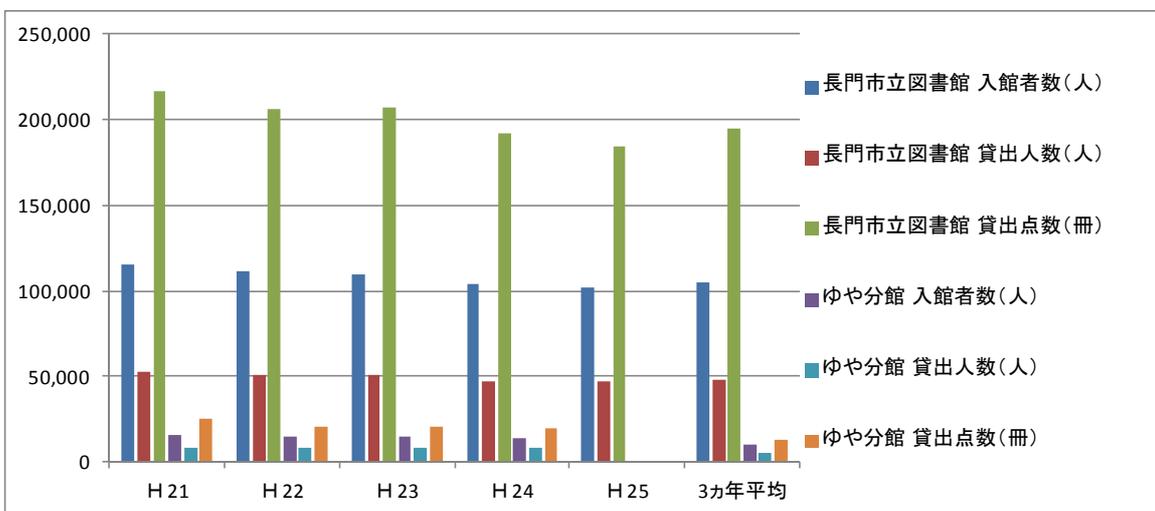
図書館は、ゆや分館と共通する各種サービスを組織的に実施しており、最寄りの館を通して全館の所蔵情報を活用できる仕組みになっています。蔵書冊数の多少や、館ごとのエリア内人口などの条件により、館ごとの利用状況は異なりますが、インターネット予約や借りた本を市内のどちら館でも返却できることを活かして、日常的に両館を利用する市民も見られます。

図書館の入館者数（延べ人数）は約10万5,000人で、貸出人数は約4万8,000人、資料の貸出点数は約19万5,000点となっており、過去3年間では減少傾向にあります。

また、ゆや分館では、入館者数が1万4,000人程度、貸出点数が1万9,000点程度で推移していますが、本館同様に減少傾向となっています。

◆施設の利用状況

No	施設名	項目	H21	H22	H23	H24	H25	3カ年平均
1	長門市立図書館	入館者数(人)	115,676	111,425	109,595	103,449	102,341	105,128
		貸出人数(人)	52,929	50,973	50,304	47,206	46,572	48,027
		貸出点数(冊)	216,241	205,905	207,000	192,396	184,761	194,719
2	ゆや分館	入館者数(人)	15,214	14,848	14,481	14,249	13,548	14,093
		貸出人数(人)	7,959	8,186	8,155	8,012	7,412	7,860
		貸出点数(冊)	25,505	20,676	20,226	19,439	18,111	19,259



⑤コスト状況

公立図書館については、図書館法で利用に関する無料の原則が定められた施設となっているため、一部貸室としての使用料収入がわずかにありますが、基本的に収入はありません。

一方で、施設の維持管理費（平成23年度～平成25年度の3か年平均）は、960万円余りとなっており、事業運営も含めた全体の支出は約5,700万円となっています。

また、前述のとおり、図書館のサービスとして、貸出、予約、レファレンスサービスに加え、市民ボランティアとの協働事業、移動図書館などの多様な取り組みを展開しています。

これらの事業にかかる支出と施設維持管理費を加えた費用を年間の貸出点数（3か年平均：約21万4,000点）当たりの支出に換算すると、1点当たり約268円になります。

◆維持管理経費の状況

No	施設名	併設施設	施設維持管理経費の状況 (千円)			
			H23	H24	H25	3か年平均
1	長門市立図書館	なし	11,551	8,562	8,853	9,655

◆施設全体の収支の状況

No	施設名	収入(H23～H25年度平均)(千円)			支出(H23～H25年度平均)(千円)		
		使用料等	その他収入	収入合計	施設維持管理費	事業運営費	支出合計
		A	B	C=A+B	D	E	F=D+E
1	長門市立図書館	13	111	124	9,655	47,624	57,279

⑥まとめ

本市には、長門市立図書館とゆや分館（ラポールゆや内）の2つの図書館があり、資料の貸出や来館者へのサービスだけでなく、市民活動への支援・協働事業を実施するとともに、「ぐるブック号」による移動図書館サービス等の多様な取り組みを展開しています。

施設自体は建築後17年であることから耐震性もありますが、今後は、何らかの老朽化対策が必要となることが予想されます。また、狭あい化したスペースへの対応や、情報化の進展に応じた機器環境の充実等の市民ニーズに合った利用しやすい図書館にすることが課題となっています。

図書館の入館者数は約10万5,000人、貸出冊数は約19万5,000点となっており、過去3年間では減少傾向にあるため、施設の魅力を向上させ、利用者の増加を図ることが課題です。

また、管理運営は市の直営で行っており、公立図書館は図書館法第17条の規定により

第3章 公共施設の現状

「原則無料」の施設であるため基本的に収入はありません。支出全体では約 5,700 万円となり、貸出 1 点当たり約 280 円の費用がかかっていることとなります。

図書館については、利用者数・貸出点数が減少している状況であり、今後の人口減少によりさらなる利用者数の減少も見込まれることから、引き続き管理運営面の効率化を図るとともに、利用者の増加に向けた取り組みが求められます。



イ 博物館等

①サービス状況

本市では、金子みすゞ記念館、村田清風記念館、香月泰男美術館、くじら資料館、日置歴史民俗資料館及びながと歴史民俗資料室といった博物館等の施設があります。

これらの施設については、文化・芸術・歴史に関する資料の収集、保存、展示等を行い、広く市民の文化の向上に資するとともに、本市を訪れる観光客に触れてもらうことで、観光振興などに繋がることを目的としています。

2つの記念館、美術館及びくじら資料館については、それぞれ郷土の偉人・先人についての顕彰や郷土の文化を伝えるものであることから、展示スペースが施設の大部分を占め、各々ゆかりの土地に建設されており、各地域の観光の拠点施設にもなっています。また、各種企画展をはじめとするさまざまなイベントを実施し、施設の魅力向上を図るとともに、共通入館券を発行するなど集客力向上に努めています。

なお、ながと歴史民俗資料室は教育委員会事務庁舎内に複合施設として整備され、日置歴史民俗資料館は日置農村環境改善センター敷地内に併設されています。

②建物状況

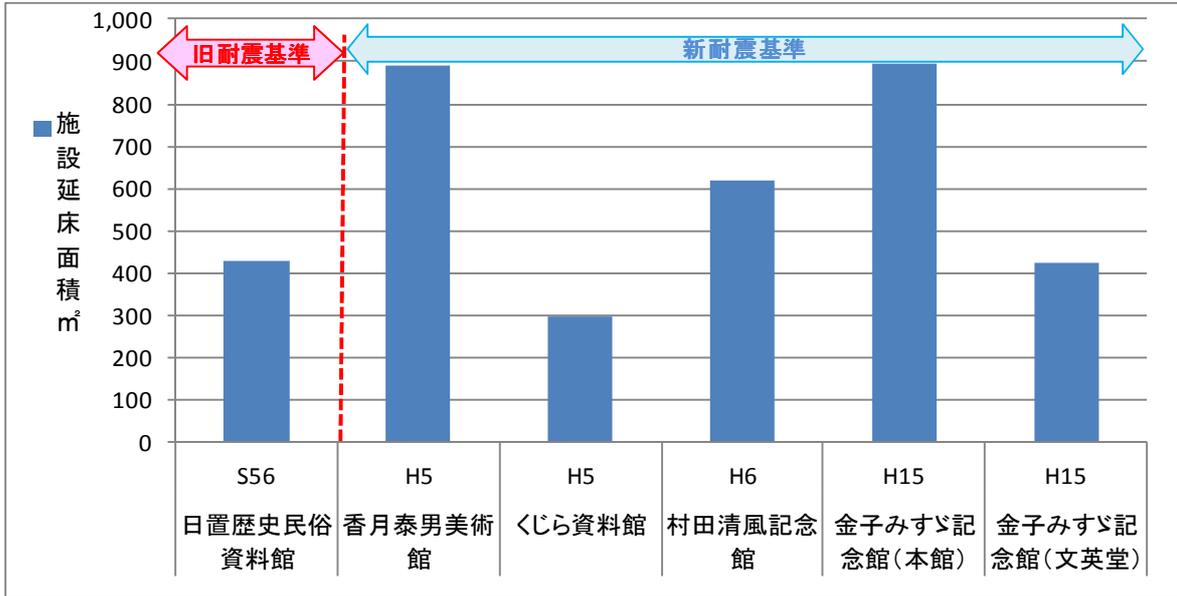
金子みすゞ記念館、村田清風記念館、香月泰男美術館、くじら資料館については、建設後10年から20年程度で新耐震基準以降の建物であり、現在のところ目立った老朽化はありませんが、施設の性質上、観光振興の側面があることからリニューアル等の改築が必要になるのが一般的です。

一方、ながと歴史民俗資料室（教育委員会事務庁舎内）は、建築後53年を経過していることから、教育委員会事務庁舎と併せて対策を検討する必要があります。また、日置歴史民俗資料館も建築後33年を経過していることから、今後何らかの老朽化対策が必要になることから、安全性の確保の観点から耐震化への対応についても早期に計画し実施していく必要があります。

◆主な建物一覧

No	建物名	併設施設	建設年度	構造	地上	地下	施設延床面積(m ²)	耐震化実施状況	
								耐震診断	耐震改修
1	金子みすゞ記念館		H15	W	1		424	不要	不要
2	金子みすゞ記念館		H15	RC	2		898	不要	不要
3	香月泰男美術館		H5	SRC	2		890	不要	不要
4	くじら資料館		H5	RC	2		298	未実施	未実施
5	村田清風記念館		H6	RC	2		620	未実施	未実施
6	日置歴史民俗資料館	日置農村環境改善センター	S56	RC	2		430	未実施	未実施
参考	ながと歴史民俗資料室	教育委員会	S36	RC	2		-	未実施	未実施
	全体						3,560		

◆築年度別の整備状況



③管理運営状況

博物館施設の運営時間については、基本的に開館時間は9時から17時までとなっております。休館日は施設によって下記のとおり違いがあります。

博物館施設は、すべて市の直営で運営しており、運営は基本的に嘱託職員と臨時職員で行っていますが、金子みすゞ記念館と香月泰男美術館は職員が1名ずつ配置されています。なお、長門・日置の歴史民俗資料室・館は、通常は無人の施設ですが、併設されている教育委員会事務局の職員が対応にあたっています。

◆開館状況一覧

No	施設名	併設施設	開館状況			
			開館日		休館日	
			平日	土日祝	定期休館日	備考
1	金子みすゞ記念館		9:00~17:00	9:00~17:00	年末年始	
2	香月泰男美術館		9:00~17:00	9:00~17:00	火曜日(祝日の場合は翌水曜)、年末年始	展示替期間には休館の場合あり
3	村田清風記念館		9:00~17:00	9:00~17:00	火曜日・年末年始	
4	くじら資料館		9:00~17:00	9:00~17:00	火曜日・年末年始	
5	日置歴史民俗資料館	日置農村環境改善センター	9:00~16:30	—	土日・祝日・年末年始	
参考	ながと歴史民俗資料室	教育委員会	8:30~17:15	—	土日・祝日・年末年始	

④利用状況

金子みすゞ記念館の年間利用者数は、平成15年度オープン時が約20万5,000人で、以来減少傾向にあり、平成23年度の15万4,000人から平成25年度には約9万6,000人となっています。

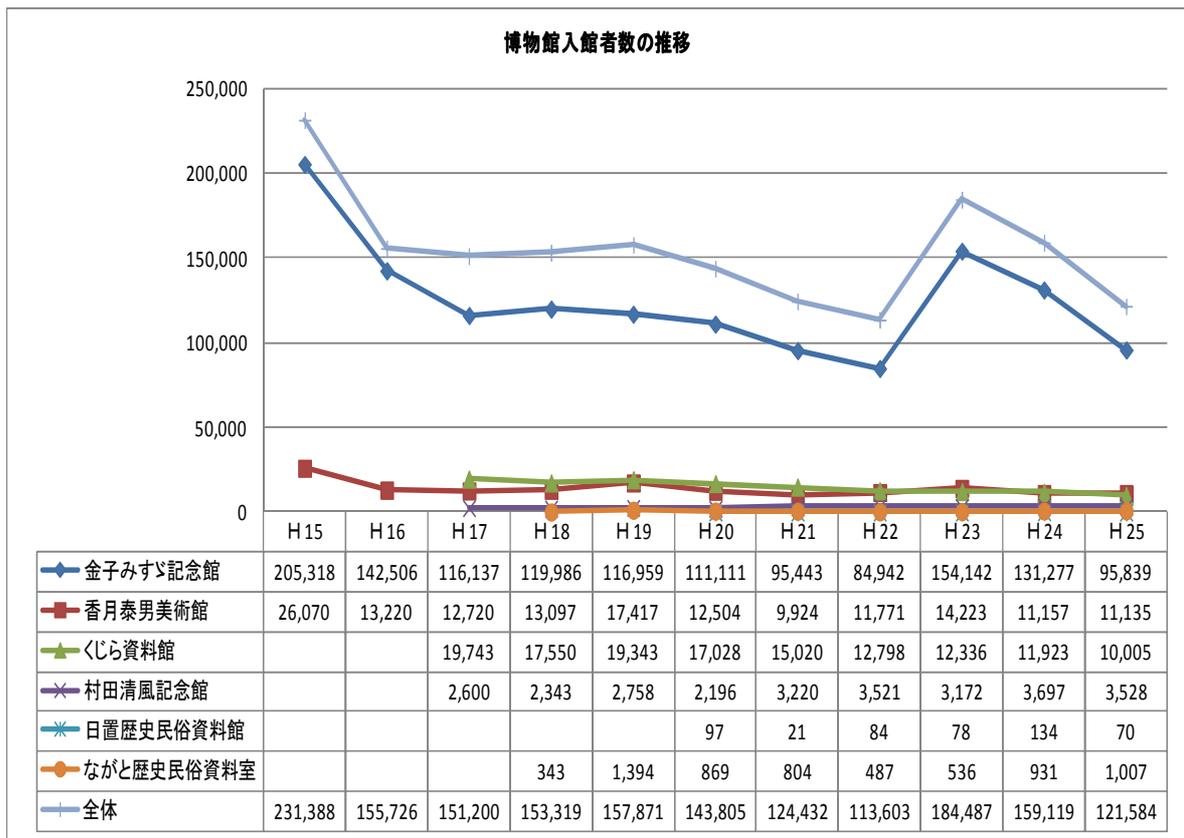
第3章 公共施設の現状

香月泰男美術館でも、平成15年度の約2万6,000人に対し、平成25年度は1万1,000人となっており減少傾向となっております。

また、くじら資料館については減少、村田清風記念館については微増傾向にあります。

一方、ながと歴史民俗資料室の年間利用者数は、過去3年間の平均で年間約825人、日置歴史民俗資料館は94人で利用が少ない状態が続いています。

◆各施設の利用状況



⑤コスト状況

博物館等の収入（平成23～25年度の3か年平均）は、全体で年間約6,600万円の収入があり、そのうち、入館料や観覧料等の使用料が約4,400万円で67%を占めています。

一方、支出（平成23～25年度の3か年平均）は、全体で年間約7,000万円となっており、施設ごとで収支状況の差はあるものの、他の施設分類と比較すると収支状況は良好な状態です。しかしながら、利用の少ない施設では、利用者1人当たりの経費が約1,700円で全体平均の2倍以上となっており、高コストとなっているものもあります。

また、収支全体のマイナス分である約457万円は、市民1人当たり123円の費用を負担していることとなります。

◆博物館施設の維持管理経費の状況

No	施設名	併設施設	維持管理経費の状況 (千円)			
			H23	H24	H25	3カ年平均
1	金子みすゞ記念館		10,182	12,883	7,937	10,334
2	香月泰男美術館		6,018	8,823	11,483	8,775
3	くじら資料館		1,787	1,648	2,082	1,839
4	村田清風記念館		2,016	2,318	2,294	2,209
5	日置歴史民俗資料館	日置農村環境改善センター	55	40	28	41
参考	ながと歴史民俗資料室	教育委員会	—	—	—	—
	全体		20,058	25,712	23,824	23,198

※ながと歴史民俗資料室は、教育委員会事務局庁舎内にあるため単独での維持管理費はありません。

◆博物館施設の収支

No	施設名	収入(H23～H25年度平均)(千円)			支出(H23～H25年度平均)(千円)		
		使用料等	その他収入	収入合計	施設維持管理費	事業運営費	支出合計
		A	B	C=A+B	D	E	F=D+E
1	金子みすゞ記念館	38,063	13,398	51,461	10,334	18,825	29,159
2	香月泰男美術館	3,851	8,207	12,058	8,775	19,393	28,168
3	くじら資料館	1,865	43	1,908	1,839	4,875	6,714
4	村田清風記念館	259	169	428	2,209	4,134	6,344
5	日置歴史民俗資料館	0	0	0	41	0	41
	合計	44,038	21,817	65,855	23,198	47,228	70,426

⑥まとめ

記念館・美術館・資料館のような博物館施設は、本格的な文化・芸術作品及び貴重な文化財・歴史資料に触れる機会の提供や、郷土ゆかりの歴史・文化・芸術資料の収集・保存を通じ、本市の文化・芸術の発展に貢献しており、観光振興の拠点でもあることから、今後も必要とされる施設です。

金子みすゞ記念館、村田清風記念館、香月泰男美術館、くじら資料館については、全体的に入館者数が減少傾向にあり、現在のところ目立った老朽化はありませんが、観光施設として定期的にリニューアル等の改築が必要になるのが一般的です。

また、長門・日置両歴史民俗資料館は、建物自体も古く、利用者が少ない状況が続いています。

コスト状況は、他の施設分類と比較すると収支状況は良好な状態ですが、収支全体のマイナス分は市民が負担していることにもなり、収支状況の改善が必要となります。

博物館施設は、利用者の多寡により収支状況が大きく変化します。このため多くの観光客や市民に本市の文化や歴史に触れてもらえるような企画展等、利用者数向上に向けた取組みが必要です。更に来館者向け物販など、サービス向上の取組みと合わせてコスト削減に向けた取組みなど、施設の効率的な運営のための検討が必要であると考えられます。